

お手入れのしおり [エクステリア版]

日頃からのメンテナンスで
きれいに長く楽しみましょう

※商品の仕様変更によりお手入れの方法が変わる場合がございます。
あらかじめご了承ください。

お引渡し後のご連絡は下記までお願いいたします

お問合せはコチラ



045-782-1327



iroha@green-farm.co.jp

営業日の9時30分～18時（年末年始・店舗休業日を除く）

彩庭 HP



ガーデン・エクステリア

彩 iroha 庭

株式会社 グリーンファーム

〒236-0042 横浜市金沢区釜利谷東 4-49-7

●その他のお手入れ

カーポート・テラス ガーデンルーム

水洗いで美しさと透明性を保つ



屋根の素材は、ポリカーボネートなどが主に使われています。軽量のプラスチック素材で、衝撃・熱に強く、採光性・耐久性に優れているのが特徴ですが、擦れ傷のつきやすい材質です。定期的なお手入れで美しさを保ちましょう。

アルミ製品のお手入れ

アルミ型材、ラッピングアルミ型材、アルミ鋳物の部分は年に2～3回の水洗いをしてください。

汚れが軽い場合	水でぬらした布で拭き、乾拭きをしてください。
汚れがひどい場合	中性洗剤を薄めた液で汚れを落とした後、洗剤が残らないようによく水洗いをしてください。
汚れが著しく、サビが出ている場合	中性洗剤をつけた目の細かい紙やすりで軽くこすり、汚れやサビを取り除きます。その後、水洗いし、乾拭きをしてください。

※小石などが当たるなどして、アルミ型材またはラッピング型材の表面に傷がついてしまった場合には補修塗料で補修ができます。

アクリル樹脂板・ポリカーボネート板・ガラスのお手入れ

- アクリル樹脂板、ポリカーボネート板の美しさを保つ効果的な方法は定期的な水洗いです。年に数回、薄めた中性洗剤と併用した水洗いを行うだけで大きな効果が得られます。
- ガラスパネルは市販のガラスクリーナーを使用して、柔らかい布などで拭き取ってください。

※アクリル樹脂板、ポリカーボネート板には、ガラスクリーナーは使用しないでください。

熱による膨張・収縮により屋根材がこすれる音が発生する場合がありますが、性能上問題はありません。

注意点

- 鳥の糞などを取り除く際には、パネルに傷がつかないように注意してください。
- 洗剤を使用した場合は洗剤が残らないように十分に洗い流してください。
- シンナー・ベンジンなどの溶剤、研磨剤や熱湯、乾いた布などを使用すると傷・破損・変形のおそれがありますので、使用しないでください。また、殺虫剤がかかった場合は速やかに中性洗剤を薄めたもので洗い、よく水で流してください。放置しますと、透明性を損なったり、ひび割れが発生することがあります。
- 古くなったパネルは、早めに交換してください。強風、衝撃で破損しやすくなります。

●門扉・フェンス・金属製品のお手入れ

アルミ・ラッピング形材 アルミ鋳物・ステンレス

年に数回の水洗いと乾拭きで汚れをためない



アルミは、錆びにくくメンテナンスの必要があまりない金属です。しかし、表面に付着した汚れを長期間放置すると、腐食の原因となります。それを防ぐには、年数回の水洗いと乾拭きが有効です。

汚れをためないお手入れが、施工時の美しい光沢を長年守ることになります。

ステンレスも耐食性に優れた、錆びにくい金属ですが、使用条件や環境により、汚れがたまったり、付着物による“もらい錆”が発生します。ステンレス本来の品の良い光沢を保つには、年に3~4回、水拭きと乾拭きのお手入れを行いましょう。臨海工業地帯・工業地帯・海岸部や農業散布の影響のある地域では、年に5~6回のお手入れをおすすめします。

アルミのサビの原因

アルミの腐食(サビ)の原因は、大気中に含まれるほこり、すす(ばい煙)、鉄などの金属粉、自動車の排気ガス(亜硫酸ガス)、海塩などです。これらがアルミの表面に付着し、長期間放置されると、湿気や雨水の影響によってアルミが腐食していきます。

ステンレスもサビることがある

ステンレス製品にはクロムが含有されており、この成分が空気中の酸素と結合し、ステンレス表面に酸化皮膜を形成します。通常はこの皮膜がサビを防ぐ働きをしています。大気汚染などによって皮膜が破壊されると、その効力が失われ、そこにもらい錆が発生します。主な原因となるのは建設工事や車両走行時に飛散する土・ほこり・鉄粉、自動車の排気ガス(亜硫酸ガス)、海塩などです。

アルミお手入れの回数

アルミを腐食から守るには

年1~2回の水洗いと乾拭きが効果的です。工業地帯や海岸部では、お手入れ回数を増やすことをおすすめします。

臨海工業地帯	年2~3回
海岸・工業地帯	年2回
市街地	年2回
田園・山間地帯	年1回

木目調などのラッピング形材

アルミラッピング形材のお手入れには、布やスポンジなどのやわらかいものを使用し、金属製ブラシや金ペラなどは使用しないでください。傷がつく恐れがあります。

また、アルミラッピング形材は傷が目立ちやすいため、ご注意ください。

汚れの程度とお手入れ方法

汚れの程度	用具・洗剤	お手入れ方法
軽い汚れ	水・柔らかい布 またはスポンジ	水またはスポンジをぬらし、アルミまたはステンレス部分を拭きます。 そのあと、乾いた布で乾拭きします。
汚れが ややひどい	水・中性洗剤 柔らかい布 アルミは またはスポンジ	中性洗剤を1~2%の割合で水で薄め、布またはスポンジをぬらし、アルミまたはステンレス部分を拭きます。 ステンレスの汚れが綺麗に除去できない場合は市販のステンレス用清掃薬液などを使用してください。 その後、洗剤が残らないよう水洗いし、仕上げに乾いた布で乾拭きをします。
汚れがひどい	水・中性洗剤 柔らかい布 アルミは ナイロンタワシ ステンレスはスポンジ	中性洗剤を1~2%の割合で水で薄め、アルミはナイロンタワシ、ステンレスはスポンジをぬらし拭きます。 ステンレスの汚れがきれいに除去できない場合は、市販のステンレス清掃薬液、硝酸の15%希釈液などで、 こすり取ります。 その後、洗剤が残らないよう水洗いし、仕上げに乾いた布で乾拭きします。

※洗剤は中性洗剤(1~2%の水溶液)を使い、酸性洗剤やアルカリ性洗剤は避けるようご注意ください。

※金属たわし、金属ブラシなどは、表面を傷つけるので使用しないでください。また、スポンジを使用する際は、ステンレスの研磨目に沿って、均一な力で拭いてください。

※汚れの程度は部位により、軽い・ややひどい・ひどい、と異なりますので、それぞれに合った処理をしてください。

※ほかの部位に強い処理がおよばないように、ご注意ください。



サビが出てしまったら

表の「汚れがひどい」場合と同じお手入れをします。
それでサビが取れないようなら、目の細かいヤスリで軽くこすり、サビを取り除きます。その後、洗剤が残らないよう水洗いし、仕上げに乾いた布で乾拭きします。



傷がついてしまったら

汚れやサビをきれいに落としてから、アルミ用補修塗料を塗布します。塗料の使用法は各商品の注意書きに従ってください。



金属製品ご使用の注意

長く快適にお使いいただくために、以下のことにご注意ください。
特に門扉とフェンスは、むやみに揺すったり、乗ったり、寄りかかったりすると壊れる原因にもなりますので、お気を付けください。

開き門扉

- 通常、使用しない場合は、安全・防犯のために施錠をお願いします。
- 落とし棒の付いている商品は、下ろしてご使用ください。

跳ね上げ門扉

- 通常、使用しない場合は、扉を下ろした状態にしてください。
- 扉を閉める際は、両サイドのアームを持って引き下げないように、ご注意ください。

カーポート

- 屋根に重いものを載せないよう、お願いします。
- 屋根に乗ったり、柱にのぼったり、ぶらさがったりするもひかえてください。
- 降雪時には雪下ろしが必要となります。20cmほどの積雪を目安に、雪下ろしを行ってください。

伸縮門扉

- 落とし棒の付いている商品は、それを下ろし、施錠してください。特に強風時には、安全のために重要です。
- 強風時には、さらにガーデンゲート本体をたたみ、ロープなどで門柱に固定してください。

フェンス

- 雨具、洗濯物、布団などをのせないようお願いします。
- つる性植物等を絡ませると、本体が破損する場合があります。

●木製品のお手入れ

天然木製品

IRONWOOD URINウリン材

ノーメンテナンス



ウリン材は、インドネシア・ヨーロッパでは昔から鉄木(アイアンウッド)と呼ばれ親しまれてきた、世界で最も強い木のひとつです。水中でも100年の耐久性がある木として、ヨーロッパ各地でも長く使われてきました。屋外で耐久性があるため、ウッドデッキやフェンス、パーゴラなどエクステリア資材やガーデン資材として幅広くご利用いただけます。

樹種	クスノキ科 広葉樹
名称	ウリン(インドネシア)・ボルネオアイアンウッド(英名)・ビリアン(マレーシア)
用途	床材・港湾材・橋梁材・橋脚材・柔構造材

ノーメンテナンス!無塗装で楽しめる木材

天然無垢材のウリン材は防虫・防腐処理や木材保護塗装をせずに、長期に渡って使用できます。無塗装でも耐久性に変化はありません。防虫性にも優れているためシロアリ等に対する抵抗力も強いです。

デザインの幅が広がる、美しく安定性のある木材

寸法安定がよく、反りやヒビ割れが比較的少ない木材です。節がほとんどなく木肌はなめらか、長年使用していると表面の毛羽立ちはありますが、ササクレは比較的少ない木材です。

比重が高いため、水に沈むほど堅く、重いと非常に職人泣かせの木材ですが、加工性に優れていますのでフリープランが可能です。また、防腐性に優れているため、柱を地中に埋めることも可能です。お庭でのデザインの幅を広げることができます。

注意点

- 屋外に設置後、2~3カ月程度は雨水によりポリフェノール等(茶色の樹液)が染み出しますが、人体への影響はありません。
- 設置場所によっては、樹液で汚れる可能性がございますので、お問合せ時にご相談ください。ただし、打設したばかりのコンクリート(駐車場や擁壁など)ブロックの場合はしみ込みやすいので、洗浄しても樹液の跡が残ることがあります。

●木製品のお手入れ

人工木製品

日々のお手入れで美しさを保つ



人工木材とは、リサイクル素材を使用した環境配慮型素材です。芯材部は木粉、樹脂とともに100%リサイクル素材を使用。シックハウス症候群の原因となるトルエン、キシレンなどの有機溶剤やホルムアルデヒドを含む素材は使用していません。ササクレが起きないのでお子様やペットにも安心、シロアリの心配もありません。

	用具・洗剤	お手入れ方法
日々のお手入れ	柔らかい布 スポンジ 清掃用ブラシ	汚れや雨シミが軽い場合は、水またはお湯で濡らした布で拭き、ひどい場合は中性洗剤を薄めた液で汚れを落とし、洗剤が残らないようによく水洗いをして拭き取ってください。 デッキ表面を清掃用ブラシなどで洗浄する際は、材料の長手方向に沿ってこすってください。過度に強くこすらないでください。 <u>※金属製のブラシやスチールワールは傷がつきますので使用しないでください。</u>
雨シミ		雨シミが発生した場合は、デッキ全体に十分に散水し、乾かない間に水を拭き取ってください。それでも取れない場合は、再度繰り返してください。 <u>※サンドペーパーによるシミ取りは行わないでください！</u>
カビ(黒い斑点)	次亜塩素酸系 カビ取り剤	カビ(黒い斑点)がでたら、次亜塩素酸系カビ取り剤を使用してください。 ①カビ取り前にデッキを水洗いし表面を乾燥させる。 ②表面全体にカビ取り剤をスプレーし、こすらずに放置してください。 ③表面にカビ取り剤が残らないように、しっかり水で洗い流し、水を拭き取ってください。
表面の傷	80番程度の サンドペーパー	サンドペーパー(研磨紙)を使って長手方向に沿って、一方向に軽くこすってください。 <u>※強くこすらずに全体をぼかすように数回こすると綺麗に補修できます。</u> <u>※デッキなど平らな広い面を補修する場合、研磨補助器具を使うと楽に補修できます。</u>

注意点

- 雨や紫外線により経年変化で色あせが生じます。色あせにともない表面部に粉が発生しますが、強度に影響はしません。
- 樹脂を含んでいるため、温度差による影響で伸縮や反りが発生します。
- ご使用に差支えない範囲で、歩行摩擦で静電気を帯電する場合があります。
- 自然の風合いを出すため、製法上、部材ごとに表面の色にばらつきがあります。
- 人工木材は水をほぼ吸わないために、わずかな反りに水が溜まったり、乾燥時間に差が生じる場合があります。
- 木粉入りの材料であるため、成分が表面に浮き出てシミになる場合があります。
- 日差しが強い時は、板の温度が60度前後になります。火傷の恐れがありますので、必ず履物をはいてください。

●エクステリア商品のお手入れ

照明

長くお使いいただくために素材に合ったお手入れを



お手入れ方法

素材	お手入れ方法
・金属 (ステンレス・真鍮・鉄・銅線・アルミ・ アルミダイキャスト・アルミ鋳物) ・陶器	乾いた柔らかい布で、汚れを軽く拭き取ってください。 洗剤のご使用はおすすめできません。
・樹脂(プラスチック・ポリエチレン) ・ワーロンシート ・人工大理石	柔らかいハケやブラシなどで汚れを落とし、 柔らかい布で軽く拭いてください。
・ガラス	中性洗剤を含ませたスポンジで軽く水洗いした後、 乾いた布で水分を十分に拭き取ってください。
・透過性樹脂 (アクリル・乳白アクリル・ ポリエチレン・乳白ポリカボネート)	柔らかい布に中性洗剤を含ませ、汚れを拭き取ります。 仕上げは水拭きをして、そのまま乾かしてください。

使用上のご注意

- 取付商品が100V・ローボルト(12V・24V)かご確認ください。
- ランプの交換は、必ず電源を切って下さい。感電の原因となります。
- 照明はデリケートな素材が使われることが多いので、クレンザー、たわし、金属ブラシなどでの
お手入は控えてください。表面に傷がつくおそれがあります。
- 消灯直後に器具は熱くなっているので、触れないでください。やけどの原因となります。
- 電球、電球型蛍光灯は消耗品です。LEDタイプの商品は光源が交換できないものがあります。

●門扉・フェンス・金属製品のお手入れ

真鍮・銅製品

美しく酸化させたいとき
光った状態を保つためのお手入れ



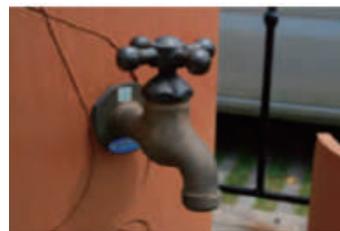
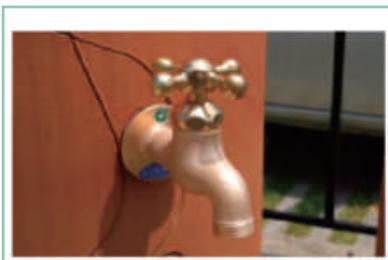
銅・真鍮製品は時間が経つにつれ、酸化し深みのある落ち着いた色になっていきます。多少汚れても目立たなくなりますが、美しく酸化させたいとき、光った状態を保ちたい時は、お手入れが必要です。指紋、水滴等は、そのまましておきますと「しみ」となって残りますので、早めに拭き取ってください。

汚れの程度とお手入れ方法

光った状態を保ちたい時	時々、乾拭きし、汚れが目立ってきたら、真鍮磨き剤で磨く。エッチングプレート等、凹部が着色してあるものは、磨きすぎて色がとれてしまわないように軽く磨いてください。
光らせたくない時、または全体が着色してあるもの	時々、乾拭きする。部分的に汚れを取りたい時は、スチールウールで一方方向に軽くこする。ナイロンタワシ等は使わないでください。
真鍮磨き剤の使用方法 (Brass Polish)	Tシャツの生地等、柔らかい木綿の布に真鍮磨き剤をたっぷり染みこませ、充分磨いた後、乾いた布でもう一度磨いてください。

真鍮製品の色の変化

真鍮は年月が経つにつれて、酸化現象で色が黒っぽくなっていきます。これは素材の特徴としてご理解ください。



● 仕上げ・床仕上げのお手入れ

ブロック・レンガ

白華の現象は適切なお手入れを



レンガは、もともと重厚感がある素材、歳月の経過とともに多少の汚れや風化を受けることで、一層味わいが増します。また、庭の植栽と馴染み、周囲の環境と調和してきます。汚れはあまり気にしないほうがいいでしょう。ただし、レンガもブロックも、白華(エフロレッセンス)の現象がある場合は、適切なお手入れが必要です。

白華現象(鼻たれ)

ブロックやレンガの表面に、白い綿状の汚れが発生することを「鼻たれ」と呼びます。セメントの硬化過程で発生する水酸化カルシウムが、水溶性として素材の表面に運ばれ、乾燥することで空気中の炭酸ガスと反応して炭酸カルシウムに変化したものです。結晶成分が白い汚れとして残り、特に雨期と冬期に発生しやすくなります。

● 鼻たれ除去方法

軽い白華の場合は、ナイロンブラシやワイヤーブラシで軽くこすると、除去できます。

白華の汚れがひどい場合は、目立つ部分を上記の方法で取り除き、その後、白華除去剤や希釈酸を用いて、白華を溶解させます。

除去剤使用後は、ブロックやレンガの表面に散水し十分に水洗いをしましょう。

白華現象(粉吹き)

コンクリートブロックの表面が白く粉を吹いたように汚れる現象を「粉吹き」と呼びます。コンクリートから水分がしみ出し、その中に溶け込んでいたアルカリ金属塩(重炭酸ナトリウム、塩基性硫酸カリウム)などの成分がブロック表面で乾燥して固まったものです。

● 粉吹き除去方法

水溶性の汚れなので、水洗いで簡単に除去できますが、またすぐに発生する傾向があり、こまめなお手入れが必要となります。

施工後2~3年を経ると素材内の細孔がふさがってくるため、次第に発生頻度が減り、やがて汚れの発生がみられなくなります。

白華豆知識

外的要因として

- 水: 雨や水たまりなどの影響
- 時間: 若材齢時に発生しやすい
- 温度: 冬期に発生しやすい
- 風: 風が当たると水が乾燥して白華が折出する

白華は主にセメントによるものであり、白華が多い製品は裏を返せば強度、耐久性もおおきいのです。

お掃除ポイント!

床仕上げは水勾配をとるため、低いところに土砂などが溜まり汚れやすくなります。

● 壁仕上げ・床仕上げのお手入れ

自然石貼り



定期的なお手入れで風合いを保つ

自然石の色むらや、石が生成される際にできる柄や細孔などが自然石らしい風合いを醸し出します。細かい穴の細孔が、吸水性と透水性を持っています。しかし、そこから水を媒体として塵や土砂などの汚れが入り込むと、シミとなって広がることがあります。それを防ぐためにも定期的なお手入れが大切になります。

汚れの程度とお手入れ方法

汚れの程度	お手入れ方法
塵・土砂	ダスタークロスなど(油がついてないタイプのもの)で表面を乾拭きします。
軽い汚れ	ウェス(機械手入用雑巾)やモップを水でぬらし、よく絞って表面を水拭きします。
水拭きで除去できない汚れ	水で1~2%の割合に薄めた中性洗剤をウェスなどに含ませ、よく絞ってから表面を拭きます。その後、水を含ませてゆるめに絞ったウェスで洗剤が残らないように拭き取ります。最後に乾いたウェスで乾拭きします。 ※洗剤を薄めた溶液を使用する際は、最初に目立たないところでテストを行ってください。表面の色が変化するようであれば、洗剤の使用は控えてください。

● 床仕上げのお手入れ

土間 コンクリート



コンクリートが凝結する際の化学反応により生じる熱や打設後の乾燥収縮が原因で、髪の毛程度の太さのひび割れ(ヘアクラック) 生じることがありますが、品質に問題はありません。より太いひび割れが発生した場合は、種々の原因が考えられますので、ご相談ください。



ヘアクラック

お掃除ポイント！

床仕上げは水勾配をとるため、低いところに土砂などが溜まり汚れやすくなります。

●仕上げ・床仕上げのお手入れ

タイル

永久的な美しさを保つには早めのお手入れを



永久に美しいと思われがちなタイルも、次第に白い汚れが発生する場合があります。この現象を“白華 エフロレッセンス”といいます。タイルの目地の部分から白い結晶が染み出し、タイルに覆い被さっている現象を“鼻たれ”といい、また、レンガや釉薬のないタイルの表面が白く粉を吹いている現象を“粉吹き”といいます。見た目には同じような白い汚れも、それぞれに原因がことなります。

白華現象(鼻たれ)

セメントの硬化過程で生成する水酸化カルシウムが水に溶け、仕上げ面が乾燥するとき、空気や炭酸ガスなどと反応して水溶性の炭酸カルシウムとなって残ります。

●鼻たれ除去方法

まず、大まかにブラシやヘラなどで、白い物質を取り除き、その後、白華除去剤や希釈酸で洗いましょう。

白華現象(粉吹き)

無釉で吸水性、透水性のあるタイルに限り発生する場合があります。タイル裏面のモルタルやコンクリートから水分が染み出し、この中に溶け込んでいる物質がタイル表面で乾いて固まってしまうものです。

●粉吹き除去方法

水洗いで簡単に除去できますが、すぐにまた発生します。通常2~3年でタイル内の細孔がふさがり、発生しなくなります。

日常のメンテナンス

- ホウキなどで掃き掃除をしてください。
- 部分的な泥汚れは水をかけてデッキブラシ等で洗い流してください。
- 広範囲な汚れの場合は水をかけ、ナイロンブラシを装着したポリッシャーなどで洗浄してください。
- 中性洗剤を使用し上記の要領で洗浄してください。

注意事項

洗浄の後は汚れた水をきれいにふきとってください。放置しますと、再び汚れの原因になります。自動ポリッシャーで清掃する場合は研磨粒子入りのパッドやブラシは使わないでください。タイル表面が摩耗してすべりやすくなります。

白華豆知識

外的要因として

- 水: 雨や水たまりなどの影響
 - 時間: 若材齢時に発生しやすい
 - 温度: 冬期に発生しやすい
 - 風: 風が当たると水が乾燥して白華が折出する
- 白華は主にセメントによるものであり、白華が多い製品は裏を返せば強度、耐久性もおおきいのです。

お掃除ポイント！

床仕上げは水勾配をとるため、低いところに土砂などが溜まり汚れやすくなります。

● 床仕上げのお手入れ

洗い出し仕上げ

定期的なお手入れで汚れをためない



洗い出し仕上げとは古くから受け継がれてきた伝統的な左官工法でセメントに砂利など骨材を混ぜて、固まる前に洗い流し骨材の頭部分を露出させます。この凸凹により、コンクリート仕上げやタイル貼りに比べると、滑りにくいですが、汚れが溜まる可能性があります。定期的なお手入れで汚れを溜めずに綺麗さを保ちましょう。

お手入れ方法

- お手入れは、ブラシやスポンジなどで優しくこすって、水で洗いながすようにしてください。
- 高圧洗浄機を使用すると、砂利の隙間に水や空気が入り込んでしまい、小石が吹き飛ばす恐れがあります。ご使用する際は、水圧をかなり弱めてご利用ください。



注意事項

洗い出し仕上げは、時間が経つと石が外れてしまうことがあります。
また、行き来が多い部分や、砂利の種類によっては、外れやすくなります。

●エクステリア商品のお手入れ

人工芝

ラクラク簡単お手入れで美しさを保つ



天然芝のようなお手入れは不要ですが、定期的なお手入れを心がけることで、美しさを保ちましょう。

日々のお手入れ方法

- 芝が寝てしまった場合、デッキブラシ、竹ぼうきなどで逆立てるように掃き、起こすようにしてください。強く引っ掻くようにはしないでください。
- 環境によっては埃が溜まることがあるかと思いますが、その際は掃除機等で清掃してください。
- 土の上に敷いた人工芝の害虫駆除をする場合は、アルコールの除菌剤がおすすめです。
- 夏季は太陽光によって人工芝が高温になりますので、散水をおすすめします。
- ペットの尿等は水で洗い流してください。

⚠ 下に敷く防草シートを固定するためのピンを打設した部分、防草シートの縁などは雑草が生えてきます。そのような場合は、液体の除草剤などをピンポイントで施すことで効果的です。

●天然石のお手入れ

砂利敷

定期的なメンテナンスで綺麗な見た目を維持！



日々のお手入れ方法

- 下に敷く防草シートに負荷がかかると、防草シートが破れたり、穴があくことで、雑草が生えてくる要因になりますので、歩く場所には敷石等を敷かれることをおすすめします。
- 砂利上に砂や土が飛び、種が飛んでくることで、草等が生えることもありますので、見つけたら除草するようにしてください。
- 砂利には小さな砂や土などが付着しています。定期的な水洗いを行い、綺麗な状態を保ちましょう。
- ゴミ等からの色移りや、濡れた落ち葉が砂利に張り付き、色素が砂利に染みついてしまうことがありますので、目に見えるゴミは早めに取り除いてください。

⚠ 下に敷く防草シートを固定するためのピンを打設した部分、防草シートの縁などは雑草が生えてきます。そのような場合は、液体の除草剤などをピンポイントで施すことで効果的です。

●壁仕上げのお手入れ

塗り壁・吹付

仕上げ面を傷つけないように状況に応じたお手入れを



普段のお手入れ

やや硬めの毛足の長いホウキを使用して、塗り面を模様付けの面に沿って掃きます。塗り壁面に付着したホコリをはらう感じで、模様付けの目に沿ってはらい出します。特に模様付け起伏が少ない、または無い場合は上から下に向かって掃出してください。

注意点

毛足の短い硬めのブラシで擦ると塗り面に傷がつく場合がありますので、ご注意ください。

雨ダレなどの汚れの除去

薄めた中性洗剤を使用して汚れを浮かし出し、ホースなどの流水で洗い流してください。塗り面を傷つけないようナイロン製のブラシなどで汚れ面を洗浄、ホースなどの流水で洗い流してください。

注意点

模様付けが施されてる場合は、模様目の目に沿って洗浄してください。高圧洗浄などの使用は塗り面を痛める場合がありますので、ご注意ください。